

☆ 幻の「徳光スイカ」初出荷

JA管内の指宿市山川地区で名産「徳光スイカ」の収穫が5月2日から始まりまりました。昨年と比べ10日程度早く、ほぼ例年並みの時期です。

「徳光スイカ」は、シャキシャキとした歯応えと上品な甘さが特徴で、流通量も少なく「幻のスイカ」としても有名です。

指宿市山川岡児ヶ水の農家、宮田實吉さん(70)のハウスでも早朝から5名が収穫作業を行い、軽トラックに平均7キロのスイカ約300玉を次々と積み込み、JA選果場に運びました。

宮田さんは「やっとここまで来たという感じがする。植付けが少し遅れたが、交配の時期の天候も良く、順調に推移したと思う。良いスイカが出来たので、子供達にスイカそのままの味を食べてもらいたい。」と笑顔で話しました。

ハウス栽培は連休明けからピークを迎え、トンネル栽培の収穫は5月下旬から始まり、6月まで続く予定です。JAいぶすき山川西瓜専門部会は、12名の部会員で構成され、「かごしまの農林水産物認証制度(K-GAP)」を取得しており、2013年度の共販量で総面積600アール、165トン、2000万円の売り上げを見込んでいます。



写真説明

○軽トラックに次々と積み込まれた「徳光スイカ」

5月2日指宿市山川岡児ヶ水の宮田實吉さんの圃場で